

広島県におけるホオアカの生息地と繁殖生態

上野吉雄¹⁾*・石井秀雄²⁾・加藤淳司³⁾

¹⁾ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・²⁾ 広島県立西条農業高等学校・³⁾ (株) 建設環境研究所

The Habitat and Breeding Ecology of the Chestnut-eared Bunting *Emberiza fucata* in Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO, Hideo ISHII and Junji KATOH

報告

ホオアカ *Emberiza fucata* はモンゴルからウスリー地方および日本列島にかけて繁殖し、冬季は東南アジアに渡り、西南日本では越冬するものがある(中村 2000)。国内では北海道、本州、四国、九州で繁殖し、草原や農耕地などに生息する(日本鳥学会 2012)。近年、中国地方では牧場や採草地などの草原環境が著しく減少しており(小椋 2012)、ホオアカの生息域も減少している。広島県内では、山県郡北広島町の牧場で繁殖していたが(上野ほか 1996, 日本野鳥の会広島県支部 2002)、1995 年以来、渡来しなくなった(上野 2007)。そこで、広島県により要注意種に選定されている(石井 2012)。また、近隣の山口県では、秋吉台や阿知須干拓地などの限られた地域で繁殖しているのみであり、準絶滅危惧に選定されている(山口県 2002)。島根県では、益田市の開拓地や浜田市などで少数のものが繁殖しており準絶滅危惧に選定されている(森 2014)。鳥取県では、1998 年以降繁殖の確認がないので絶滅危惧 I 類に選定されている(國本 2012)。岡山県では、蒜山高原で繁殖しており留意に選定されている(丸山・山田 2009)。

近年、県内において相次いでホオアカの新たな繁殖地が確認されている。そこで、これらの繁殖地の概要とその生息状況について報告する。

安芸高田市吉田町の生息地は河川敷に発達した草原で、高茎イネ科草本のススキ *Micanthus sinensis* やオギ *M. sacchariflorus*、ツルヨシ *Phragmites japonica* などが優占する低茎草原である。

2011 年 8 月に生息を確認(上野ほか 2015)、以来、2017 年まで継続して複数つがいが繁殖している。

2015 年は 5 月から 6 月にかけて河川敷の草丈が約 1m のヨシ群落の地上部に営巣し、ヒナが巣立った。その繁殖行動について付表 1 に示す。また、2017 年 5 月 29 日にホオアカの巣内雛を確認した(図版 1-B)。

広島市佐伯区五日市の生息地は広島県が施工している埋め立て地で、シナダレスズメガヤ *Eragrostis curvula*、ススキ、メドハギ *Lespedeza juncea*、クズ *Pueraria lobata* などが優占する低茎草原であり、2014 年 8 月 10 日に幼鳥が撮影されている(吉岡 2014)。2015 年 7 月 5 日にさえずるホオアカのオスを 2 個体観察した。

広島市西区旧広島西空港跡地の生息地はシナダレスズメガヤ、シマスズメノヒエ *Paspalum dilatatum*、ヨモギ *Artemisia princeps*、カモガヤ *Dactylis glomerata* などが優占する低茎草原である。2016 年 6 月 15 日親から給餌される巣立ちヒナが確認され、2016 年 7 月 6 日に福本幸夫氏により、さえずるオスと餌を運ぶメスが確認され、旧広島西空港跡地全域で少なくとも 4 つがいが確認されている(才峠・福本 2016)。

山県郡北広島町俵原牧場の生息地は牧場で、カモガヤなどの牧草地になっている。1995 年以来、渡来しなくなったが 2016 年 6 月 18 日にさえずるオス 1 羽を確認し、22 年ぶりの確認となった。2017 年もオス 2 羽のさえずりを確認した。

近年の県内におけるホオアカ生息地の拡大は、山口県や島根県など、近隣の繁殖個体群に由来していると考えられ、引き続き県内のホオアカの繁殖個体群のモニタリングを続けていく必要がある。

ホオアカ繁殖地の植物を同定していただいた広島大学大学院国際協力研究科の佐久間智子氏にこの場を借りて感謝の意を表す。

引用文献

- 石井秀雄（2012）ホオアカ．広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）－レッドデータブックひろしま 2011－：84．レッドデータブックひろしま検討委員会
- 國本洗紀（2012）ホオアカ．レッドデータブックとっとり 改訂版 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物：60．鳥取県生活環境部公園自然課
- 丸山健司・山田信光（2009）ホオアカ．岡山県版レッドデータブック 2009－絶滅のおそれのある野生生物－：92．岡山県環境文化部自然環境課
- 森 茂晃（2014）ホオアカ．改訂・しまねレッドデータブック 2014 動物編－島根県の絶滅のおそれのある野生動物－：60．島根県環境生活部自然環境課
- 中村登流（2000）ホオアカ．日本動物大百科．鳥類Ⅱ：144 平凡社
- 日本鳥学会（2012）日本鳥類目録 改訂第7版．日本鳥学会
- 日本野鳥の会広島県支部（2002）ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版．中国新聞社
- 小椋純一（2012）森と草原の歴史．古今書院
- 才峠正治・福本幸夫（2016）旧広島西空港跡地でホオアカ繁殖．森の新聞 206：8．日本野鳥の会広島県支部
- 上野吉雄（2007）芸北の草原性鳥類について．高原の自然史 12：103-105
- 上野吉雄・保井 浩・山本 裕（1996）広島県芸北町の鳥類．高原の自然史 1：291-393
- 上野吉雄・石井秀雄・大竹邦暁（2015）広島県内陸部の河川敷に置けるホオアカ *Emberiza fucata* の生息環境．高原の自然史 16：63-69
- 山口県（2002）ホオアカ．レッドデータブックやまぐち．山口県野生生物保全対策検討委員会
- 吉岡 透（2014）ホオアカの幼鳥写真．森の新聞 194:10．日本野鳥の会広島県支部



A : さえずるホオアカのオス	山県郡北広島町俵原牧場	2017年5月25日
B : ホオアカの巢内雛	安芸高田市吉田町	2017年5月29日
C : 餌を運ぶホオアカのオス	安芸高田市吉田町	2015年5月25日
D : ホオアカの幼鳥	安芸高田市吉田町	2015年6月14日
E : ホオアカの生息環境	安芸高田市吉田町	2017年8月27日
F : ホオアカの生息環境	広島市佐伯区五日市	2017年8月29日
G : ホオアカの生息環境	広島市西区広島西空港跡地	2017年8月27日
H : ホオアカの生息環境	山県郡北広島町俵原牧場	2017年8月29日

付表1 ホオアカの繁殖行動

2015.5.16	
10:45	繁殖中と思われるオスを確認。まったくさえずっていない。チュ、チョリ・・・のような断片的な小声で草に止まっていた。時々場所を変えるが、狭い範囲であった。メスが抱卵しているのを見守っているようである。
2015.5.22	
7:15	メスが鱗翅類幼虫をくわえて草に止まり、飛び立って少し背の高い草むらの中に入った。その後まもなく、メスが入った草むらの中から糞をくわえて飛び出た。飛翔中に隣の縄張りのオスと思われる個体に攻撃された。メスは糞を捨て近くの草むらに急降下して消失した。すぐにこの縄張りのオスが反撃し、少しの間激しい戦いをした。
7:18	メスが餌をくわえて警戒しながら草地に入った。糞をくわえて出てきた場所である。その後、雌雄交代で餌を運び、時々糞をくわえて飛び出した。
2015.5.25	
6:00	雌雄交代で餌を運んでいた。それぞれが3回ほど巣のある草地に出入りした。
2015.5.27	
5:30	雌雄で草に止まり地鳴きする。隣接のオスも少し離れた草に止まり地鳴きする。
5:35	雌雄同時に餌をくわえて巣の近くに止まる。メスが巣に入り、短時間で出てくる。オスは10分ほど待ち、なかなか巣に入らない。オスが巣に入り、糞を持たずに出た。再びメスが入り、糞を持たずに出た。オスが入り、糞をくわえて出てきた。雌雄の給餌頻度は同じ程度。糞も同じ程度に運んだ。
2015.5.28	
6:00	オスが地鳴きしながら草上に出る。巣のすぐ横の草の根元に色の淡い幼鳥が見えた。
6:05	草原からメスが出る。餌をくわえ、巣の西側へ5mほどのところへ飛んでいって草に止まり、直下の巣ではない草地に入る。しばらくして、メスが出てきて先ほどの草にもどる。
6:15	メスがまた同じ行動をする。オスは近くの草上で地鳴きをする。時々移動して地鳴きを続ける。メスは巣の東側にも餌を運んで草の中に入った。メスは明確に2か所に餌を運んだ。ヒナは5月27日AM7:00から5月28日AM6:00の間に巣立ちし、2羽以上である。
2015.5.29	
5:30	メスの動きに合わせてオスは見張り場所を移しながら地鳴きをする。メスは3か所の草地に入った。メスは別の場所に巣材をくわえて運んでいた。他の2か所は時々入ったが餌運びは確認できなかった。
2015.5.30	
5:35	隣接のオスが自分の縄張りへ餌を運んでいた。メスは見当たらない。隣接のホオアカもヒナが小さいか、抱卵中と思われる。
5:40	オスは縄張りの境界で短くさえずる。雌雄ともあまり姿を現さない。
6:10	雌雄が土手の路上に出てくる。モズを追い払い、ヒナをモズから守っていた。
6:15	メスが綿毛をくわえ、新しい巣へ運び、巣から出て対岸へ飛んだ。同時にオスも対岸へ飛んだ。メス是对岸で餌を探し丈の低い草地に入った。オスはその真上に止まっていた。
6:30	オスが昆虫をくわえて帰ってきて、草に止まる。背の低い樹木の向こう側に入り、ヒナへ給餌した。
6:45	メスがオスの近くに飛んでくる。地面に降りて昆虫をくわえて草上上がる。すぐ根元の地面に降り、ヒナに給餌した。メスは餌を持たずに飛んでいく。オスの警戒場所とメスの出入りから、巣立ちヒナは2羽と思われる。オスは主に警戒にあたるが、給餌することもあった。巣立ちヒナへの給餌はほとんどメスがしていた。ヒナの声は聞こえなかった。メスはヒナが巣立った翌日には次の巣造りをはじめ、交尾をした。ヒナが巣立つとすぐに次の繁殖に取りかかった。
13:30	雌雄で給餌する。あまり飛翔力の強くない幼鳥が飛んで背の高いヨシ群落の中に入る。この後、雌雄交代で給餌した。ヨシの根元近くに幼鳥を確認した。給餌頻度はオスが増加し、メスは時たま給餌した。
2015.5.31	
5:45	オスが給餌し、メスは全く給餌しなくなった。メスは新しい巣の方から4回ほどアスファルトの道に出てきて、時々対岸に飛んで行った。オスはそのたびにメスを追って対岸に渡った。
8:00	メスは全く出なくなった。オスはヒナがいるあたりで給餌と警戒を繰り返した。隣接のオスを1度攻撃した。給餌場所から巣立ちヒナは2羽と思われる。
16:00	オスが2か所に頻繁に給餌していた。オスは3～10分くらい背の低い草むらに飛びこみ、その後、餌をくわえてヒナの潜む茂み上に飛んで行って止まり、ほぼ直下の草むら中に飛び込み、10秒～3分くらいで飛び出し、枯れスキの穂の部分に止まってさえずる行動を繰り返していた。
17:59	オスが隣接のオスと争う。
18:20	オスが餌を持たずにヒナのところへ行く。オスが誘導し背丈の低い草地にいたヒナがオスを追って草丈の高い草地へ飛ぶ。
18:25	土手の近くにいたヒナの所へオスが来る。餌をくわえており、素早く草地内に入る。しばらくして、7～8mくらい離れたところからオスが出てきて止まる。そこから草の多い場所へ飛去する。メスは全く見当たらず、新たに抱卵したようである。
18:31	縄張りの境界でオスがさえずる。
18:34	オスがヒナの近くの草地に入り、以後動きがなかった。

2015.6.1

- 5:35 オスがソングポストでさえずるが、餌運びをしない。
6:00 メスが新しい巣とは少し離れた場所に止まり、5分後に真下の草地に入り、それ以後出なかった。
6:05 オスが約10おきに餌を運んだ。1か所に2～3回続けて運んだり、別の場所と交互に運んだり、2か所に餌運びを繰り返した。
6:40 ヒナが1羽出現し、すぐに草地に入った。
-

2015.6.2

- 5:25 オスがさえずる。
5:30 オスが給餌を開始した。上空をモズが飛び、オスは強く地鳴きし、しばらく警戒していた。
5:45 メスが出現した。採餌のため、土手の方向に飛びしばらく採餌する。
オスがソングポストで短時間さえずる。オスは時々さえずりながら、給餌を繰り返す。隣接のオスが時々侵入し、オスはその個体と短時間争う。オスは時々新しい巣のある草地の上に行き、地鳴きをしてメスとコミュニケーションしている。
6:40 オスの給餌頻度が低下し、さえずりが増加した。ヒナの自立を促しているのか、給餌頻度が低下した。餌を持ってきてもすぐには与えず、少し離れたところに止まってから与えていた。
-

2015.6.4

- 5:12 オスが隣のオスと縄張り境界近くで争いとさえずりを繰り返した。
5:29 オスが給餌を開始した。
5:32 オスが対岸へ飛んで移動した。対岸の背の高い草地にヒナが出現した。オスが給餌し、オスは元の右岸へ戻った。
-

2015.6.5

- 5:15 オスが給餌。ヒナは2羽とも元の右岸に戻り、川を飛び越せる飛翔力がついている。ヒナはあまり姿を見せなかった。
5:32 メスがオスとヒナの近くに出現した。給餌行動はせず、しばらく草に止まったのち、新しい巣の方へ飛んで移動し、オスがメスに追従した。
5:45 草むらからオスが昆虫をくわえて出てきて、ヒナのいる草むらに入る。給餌行動は続けているが、給餌頻度が低下している。
-

2015.6.7

- 17:30 ヒナが巣の近くに行くことがなくなったので、巣立った巣を探した。河川敷の草丈約1mのヨシ群落中の地上部に巣を確認した。
-

2015.6.8

- 5:00 オスが1度給餌した。ヒナが1度草地から飛んで近くの草地に消失した。オスはさえずりと隣接オスとの争いを何度も繰り返していた。給餌は1度だけであった。隣接つがいが造巣しており、メスが巣材を運ぶ
-

2015.6.12

- 5:55 オスの餌運びは見られなかった。オスは隣接オスと争いを繰り返していた。ヒナはなわばり内から分散したようである。
-

2015.6.14

- 8:00 オスの給餌行動が見られなくなった。なわばりが少し崩壊している。隣接オスがなわばりを飛び越えて遠くへ飛んで行く。なわばりオスが対岸へ渡って探索する。
-

2015.6.14

- 10:00 ヒナが2羽草に止まる。オスが近くにおいて対岸に飛び、2羽のヒナもオスに追従して対岸に移動した。その後もオスにヒナが追従して飛ぶことを何度か観察した。ヒナの飛翔力は格段についている。
-

2015.6.18

- 5:35 ヒナは見あたらなかった。オスは隣接オスの影響下で行動していた。
-

2015.6.20

- 15:00 ヒナ2羽が対岸と元の巣の草地を往復していた。巣立ちヒナは自立したようである。隣接つがいは抱卵中である。
-